

徳大病院発表

県全域で患者情報共有 医療ネット来春始動



阿波あいネットについて説明する永廣
病院長⑥＝徳島大病院

徳島大病院は28日、県内の医療・介護施設が診療情報などを共有する県全域医療介護連携ネットワーク「阿波あいネット」の運用を2018年4月に開始すると発表した。患者

向けの参加同意書の取得を始めており、本年度中に2万7千人の登録を目指す。阿波あいネットは徳島大病院のほか、20病院と9医師会が参加を

設問では患者の同意を得た上で、医療情報については▽病名▽血液検査などの結果▽投薬内容▽入院履歴▽アレルギー▽情報▽を、介護情報に関しては▽既往歴▽血圧や体温▽ADL(日常生活の動作評価や介護必要度)を閲覧できる。

と訴えた。患者向けの参加同意書は、同大病院の外來受付前に特設ブースを設けて27日から配布している。今後は他病院

や県内企業の協力を得て配布し、同意書を取得していく。県内には地域別のネットワークはあるが、

が違つなどの理由から全県での情報共有ができていなかった。同大病院は総務省の17年度「クラウド型EHR(医療情報連携基

盤)高度化事業」に採択され、約2億円の補助を受け、阿波あいネットの構築を進めている。(笠井理)